

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	数理物理学の観点からの代数幾何学の新展開
研究代表者	森脇 淳（京都大学・大学院理学研究科・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>アラケロフ幾何とゲージ理論を中心とする二班からなる強力な研究者のチームにより、高い親和性を持つ代数幾何と数理物理学の発展と融合を図るとともに国際研究拠点を形成するというものであり、大きな成果が期待できる。若手研究者の積極的な活動と、研究に参加する物理学者のサポートにより、両班の有機的な活動の相互作用が強く期待される。</p> <p>研究の焦点はよく絞られており、研究内容は極めて独自性が高い。また、研究計画も応募者の高い研究遂行能力から実現可能と判断される。このように、本研究は、当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>